

労協連だより

前号は休ませていただいたので、2ヶ月ぶりの便りになる。この2ヶ月で、日本社会は厚く黒い雲に覆われてしまった感がある。郵政民営化をめぐる小泉劇場は、とんでもない選挙結果をもたらした。刺客という名のキャスティングに一喜一憂し、マスコミも総動員で作り上げた選挙結果だったと思う。しかし、この結果責任は間違いなく国民に返ってくる。本物の新しい社会像は、地域で市民自身が作るしかない、という動きも本格化するのではないかと思う。政治と市民生活の分断こそが、これからの矛盾の根源として立ち現れるのではないか。そのときに向け、協同労働を社会システムのひとつとして、地域に登場させる努力をいっそう強めたいと思う。

前号に、協同労働と若者について拙文を掲載させていただいた。昨日、全国20の若者自立塾実施団体が一堂に会し、初めての情報交換・交流を行った。すでに第1クールが終わろうとしているところもあれば、まだ詳細に日程を定め切れていないところまでまちまちである。しかし、共通しているのは入塾者がなかなか集まらない、という事実である。また、マスコミも若者自立塾を取り上げるケースが増えているが、一種のブームと化し、その後の批判に論調が転じることがないように、万全のリスク管理と確実な成果を挙げていくことが強調された。その意味で20団体が、運命共同体のような連帯感・一体感を生み出していけるのが鍵

古村伸宏（日本労協連・事務局長）となる。厚生労働省幹部とも相当個別に話ができ、特に次年度さらに若者の自立を支援するための概算要求を巡る議論や、他省庁との連携についても有意義な話ができ

た。労協の自立塾は、ようやくスタッフが増員され、入塾希望者も5名を越えたところで、これからが本番である。準備の過程で、応募の多さと裏腹に、入塾にいたるケースの少なさは、「引っ張り出す力」が相当必要だということを痛感させる。プログラムはかなり練り上げられてきた。中長期のスパンで、この塾の可能性と黄河を全国で示していくしかないと思う。また、3ヶ月の泊まりという高いハードルを取り払った、新しい塾のあり方も検討されている。この方向性も、全国の市町村に提案し、実現していきたい課題である。このバリエーションが、孤立化する若者が一歩前に歩むきっかけを作ると思う。問題は、その後の彼らを受け入れ、溶け込んでいける社会をどう描くか、だろう。

指定管理者制度をはじめとした、官業民営化の流れはピークに突入しようとしている。少し遅れたが、全国5ブロックを会場に、「自治体行動 企画提案学習会」を始めた。協同総研会員にも、参加を働きかけている。そのトップを切って先日東北での学習会を行った。明日を見失いそうな厳しい状況の中で、新しい取り組みや挑戦が始まっていることを実感する。各ブロックを回って「全

国連帯」の事実を作り上げて生きたいと思う。学習会では、「世界」8月号に掲載された神野直彦氏の論文を材料に、われわれが何を目指しているのか、今どんな価値を創造し、運動がどんな社会的意味を持ってきたのかを深め合っている。その自覚の上に、行動は本格化し、企画提案は迫力と説得力を持つように思う。その熱を組合員にもっともっと伝えなければならない。組合員の中には、日の目を見ていないたくさんの協同

労働の価値や成果があることも、この間の企画書作りで明らかになってきた。やっていることを丁寧に拾い上げて評価し、その意味付けの中で新たな企画提案を行う流れだ。職場の協同が組合員主体を生み出し、利用者との協同が当事者主体を生み出し、地域での協同が市民主体を生み出す。その価値を協同労働は有していることを、もっと事実となる仕事と企画で発信し、暗黒の時代に光を放ちたい。

研究所たより 研究所たより

ここのところ保育所や自治会の話ばかり書いて、「研究所たより」になっていないのでは？という声も聞こえてきそうですが、懲りずに続けます。

今年私が役員となった630戸ほどの“ニュータウン”の自治会では、10年ほど前まで、毎月会員総出で雨水枡の清掃を行っていたそうです。当初開発業者が設置していた汚水処理施設の容量の問題で、大雨が降ると汚水が逆流してしまうため、小まめな清掃が欠かせなかったと聞きました。その後市の下水道が整備されたため、ニュータウンの汚水施設は使われなくなり、逆流の問題もなくなったため、清掃も自然消滅していたそうです。

ところが7月の役員会で、消防署からの要請もあり、台風シーズン前に雨水枡を清掃することになりました。以前のやり方を覚えている人も少なく、「10年もやらずに済んだんだから、大丈夫なのでは？」という意見

もあって、議論が二転三転しながら、ようやく実施することになりました。大雨対策や環境保全というより、以前のように隣近所が力を合わせて共同作業をする機会をつくりたいというのが、会長以下三役の本音だったかもしれません。

先日、実際に作業を行ったのですが、役員会が時間切れで三役に日程を一任したら何と平日の午前中に設定されてしまいました。30年以上前に分譲された住宅地なので、会員の多くが定年退職を迎え始め、専業主婦も多いので平日でも構わないと思ったのかも知れませんが、これでは現役世代はほとんど参加不可能です。私は50～60戸のブロックの責任者のため道具の手配などもあり、やむなく午前中だけ仕事を休むことになりました。

結局、全会員の2～3割の人が出てきて、つつがなく清掃は終わりました。いつも顔見知りの人、顔は知っているけれども話